

要援護世帯にいつときも早く灯油代助成を 日本共産党議員団が中川市長に緊急要請

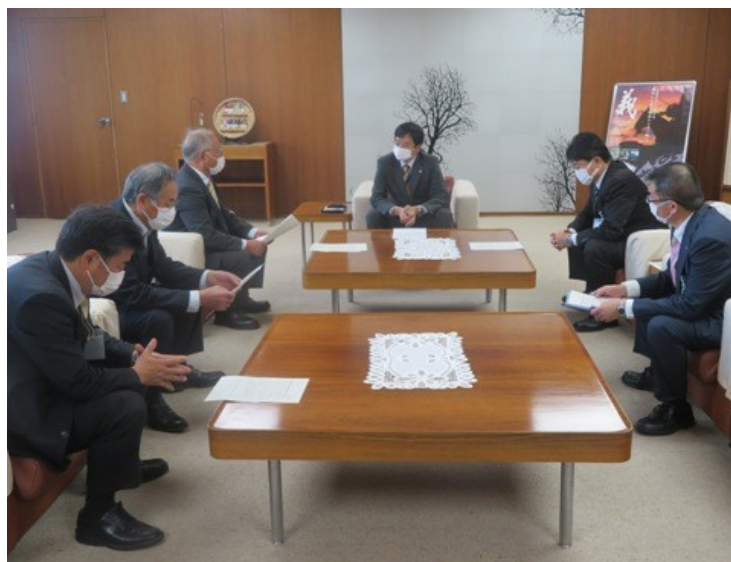
石油価格の高騰が市民生活を直撃しています。なかでも収入の少ない高齢者、障害者、ひとり親、生活保護などの要援護世帯にとっては深刻で、「このままでは寒さをしのげない」との声が上がっています。

こうしたなか、日本共産党議員団は11月29日、要援護世帯に対する灯油代助成（福祉灯油）について中川幹太市長に緊急申し入れを行いました。

12月議会直前という忙しい日程の中でしたが、市長や総務管理部長、福祉部長から対応してもらいました。

私たちの緊急要請を積極的に受け止めていただきましたので、そう遅くない時期に動きがあるものと確信しています。

緊急申し入れの主な内容は以下の通りです。



11月12日、金子総務大臣は、「地方自治体が行う、生活困窮者に対する灯油購入費の助成といった価格高騰対策の経費に対し特別交付税措置を講ずる。地方自治体が生業者や事業者の支援に不安なく取り組めるよう財政支援をしっかりと行っていく」と記者会見で述べました。

新潟県は、生活保護世帯に灯油価格が前年度比で18%上昇した場合、灯油購入費助成を行った市町村に、1世帯2500円を助成します。灯油価格はすでに18%を超えており、一刻も早い助成が求められています。

しかし、当市には高齢者、障害者、ひとり親などの要援護世帯には助成制度はありません。生活保護世帯への助成も5000円にすぎず極めて不十分です。年末を前にこれらの要援護世帯に灯油代の助成（いわゆる福祉灯油）を行ってくださいますよう、下記のとおり要望いたします。

- 1 高齢者、障害者、ひとり親家庭、生活保護世帯などに対し、1万円の灯油購入代の助成（いわゆる福祉灯油）を早急に行ってください。
- 2 障害者施設、高齢者施設への暖房費用助成を行ってください。
- 3 国、新潟県に対し、上記1、2項の十分な助成をおこなうよう要望してください。

改革すべきは「地域分権」などの課題と市長

12月議会が11月30日から始まりまし



【ベニバナボロギク】キク科の一年草。漢字で「紅花檻樓菊」と書きます。道端などにひよろりと立っています。背丈は大きいもので70センチからあります。花期は8月～10月。花は下向きのことが多く、なんとなく元気が無いように見えます。花言葉は「大切なのは外見より中身」。食用にもなるそうです。写真は11月27日、吉川区東鳥越にて撮影しました。

た。初日は提案理由の説明後、6会派の代表と無所属の宮越議員が総括質疑を行いました。

このうち、日本共産党議員団の上野公悦議員は、「これまでの当市の政策のうち、改革すべき政策と継続すべき政策を、それぞれどのように考えているのか」「市長としての市政運営の方向性の柱が明確にならない段階で副市長の定員を4人とし、主な担任意務を先行して示しているのはなぜか」などのべ、所信や提案理由の説明を求めました。

これに対して中川市長は、「私が改革すべきと考える政策として、特に重要なものは五つだ」とのべ、それぞれ簡潔に説明しました。以下はその内容です。

一つ目が「地域分権」。それぞれの地域が、自主性と自立性をもって地域の実情にあった取組を展開できるように体制の整備や地域独自の予算の在り

方などを検討する。

二つ目は、「公共交通」。特に、中山間地域にお住まいの方々の通学・通院において、負担や不自由の少ない、新たな移動手段を検討していく。

三つ目は、激甚化する自然災害と、原子力等を含む複合災害への備えだ。高齢者や障害者への小まめな支援体制や、「万が一」を想定した現場の応用力を、行政とともに町内会など地域において確実に育てていく。

四つ目は、「通年観光」の実現。当市の魅力の発信に向けて、雪国文化を象徴する雁木町家や寺町、直江津の鉄道や海、春日山城といった歴史・文化資源を核として、全国、世界から観光客を引き寄せるような観光政策を進めていく。

五つ目は、市民の「健康増進」。全国でも誇れる健康なまちを目指し、高齢者の寝たきりの防止を始め、子どもや働く方々を含めた予防医療・予防介護を推進していく。

中川市長は、副市長4人体制については、「この度の条例改正は、私の公約に基づく政策、施策（しやく）を着実に実行していくため、市政全般を統括する副市長と、3つの重要な政策テーマをそれぞれ担当する副市長を置くこととし、主な担任意務についても具体にお示しした上で、本定例会に提案させていただきます」と答えました。



総括質疑を行う上野市議

はしづめ法一の
活動レポート

No.2039 2021.12.5
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
「ホーセの見たある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第六八六回 きなこねじり

懐かしいものが突然、目の前に現れる。そうしたときの喜びは格別ですね。

土曜日の午後、Sさん宅でお茶をご馳走になったときがそうでした。居間にながらせてもらい、テーブルの上に出されたお菓子を見た瞬間、「わあ、懐かしい」と声を出してしまいました。

お菓子は薄緑色、ねじれがあって、数十年前はお客さんなどに出すお菓子の一つでした。いったん封を切ったお菓子は長持ちしなかったのでしょうか、お客さんが残すのを待って、喜んで食べたものです。とても美味しかったので、色や形とともに、このお菓子のことはしっかり記憶しました。ただ、どういうわけか、肝腎の名前が出てきません。

Sさんからお菓子が入った袋を渡してもらい、名前を見ると、「きなこねじり」と書いてあります。なるほど、こういう名前だったんですね。このお菓子をびっぴりの名前だと思いました。そして、このお菓子は県内の見附市でつくられていることわかりました。

出していたいただいたお菓子の中から一つ手にとり、じっくりと見せてもらいました。緑と白のほどよい混じり、四つほどのお菓子の本体を半分ほどひねった形、これらは昔、私が見たものとまったく同じでした。そして口に入れた瞬間、ほどよい甘さが広がりました。きな粉が入った味も間違いなく、私が若かりし頃食べたもの、そのものでした。さらにこのお菓子が持つ独特のもっちり感もかわりません。

この日、Sさん宅では、近くのHさんと一緒にお茶をご馳走になりました。すすめられた「きなこねじり」は遠慮なく手を出し、最終的には、四、五個はいただいたと思います。お茶飲みのなかで、「きなこねじり」がどこで売っているかも知ることが出来ました。

Sさんによると、柿崎のスーパーや原之町の商店にもあるとのことでした。ただ、二、三袋しかおいてないので、すぐになくなってしまっても言われました。それにしても、意外でした。私は、このお菓子が身近なところでも売っていることに気づいていませんでした。

Sさん宅でのお茶飲みを終わってから私は、車に乗り込み、インターネットで「きなこねじり」の画像を発信しました。懐かしいお菓子に出合ったことを多くの皆さんに知ってもらいたいと思ったからです。

私が思っていた通り、「きなこねじり」の思い出を持っている人は大勢いました。

「おばあちゃんだった私。いつも、おばあちゃんの割烹着のポケット捜索して(いた)」。『きなこねじり』は(見つけると)大収穫(だった)。いつもポケットにお菓子が有ったのは多分、食いしん坊の私の為。自分は、食べないで、ドラえもんのかつとにしてくれていんだな」

「だーっ！いい好きです」
「はあちゃん家に泊りに行かせられる時、お目覚めはこれかあんこ玉。そして幼稚園児なのに、朝茶で必ずお煎茶がついてました」

私が「きなこねじり」を買いに出かけると書いたら、「是非私の分も買って来てください」という人もいました。

翌日、私は板倉区まで行く用事がありました。帰りにスーパーに寄って、「きなこねじり」を探したところ、運よく一個だけ残っていました。すぐに購入し、家でもう一回、味や形を確かめました。

やはり、Sさん宅でのご馳走になった時と同じ味でした。お菓子袋には、「昔ながらのおいしさそのままお子さまからご年配の方まで皆様に愛されつつけています」とあります。わが家ではご年配の男性が愛しつづけ、もう無くなさなうす。

地域での作品展、徐々に復活へ ゑしんの里記念館でも作品展

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

| | 11月24日(水) | 12月1日(水) |
|--------|-----------|----------|
| 上越南消防署 | 0.050 | 0.057 |
| 上越北消防署 | 0.053 | 0.047 |
| 新井消防署 | 0.057 | 0.053 |
| 頸北消防署 | 0.057 | 0.057 |
| 頸南消防署 | 0.060 | 0.060 |
| 東頸消防署 | 0.050 | 0.047 |
| 名立分遣所 | 0.060 | 0.060 |
| 高士分遣所 | 0.057 | 0.057 |



11月28日、板倉区のゑしんの里記念館で開催されていた「いたくらみずえの会」の作品展を観てきました。

日曜日ということもあって、訪れる人は多く、ギャラリーでは作品を観ながら語り合う光景がいくつも見られました。

私も清里の女性グループの人たちと大口昭治さん親子、孫さんの3人展のことや妙高の大洞原の開拓、酪農の歩みなどについて語り合いました。

この秋は浦川原区での小さな文化展、吉川区明善寺での作品展などを観てきました。地域でのこうした作品展は昨年から中止が相次いでいましたが、ようやく復活してきましたね。